学校生活と税

新居浜市立中萩中学校３年　　八ッ橋　明音

七月終わりの日曜日、私は人生で初めて大学に行った。高校三年生の姉が参加するオープンキャンパスに興味を持ち、連れて行ってもらったのだ。初めての大学のキャンパスは予想以上の規模で、ただただ圧倒された。学部の説明をする大学生はみな目的意識を持ち、将来の姿をしっかりと見据えて勉強している様子で、とても輝いて見えた。高校入学当初から、姉は同じ夢を追いかけている。それに比べて、なんとなく学校に通い、なんとなく高校受験に向かっている自分に、正直焦りが生まれた。

しかし、午後からの学校説明で、私はなんとなく学校生活を送っていることを更に後悔することになる。それは、学費の説明を何気なく聞いていた時だった。

「教科書代は、学科によって違いますが、年間で五万円ほどかかります。」

という言葉に驚愕したからだ。教科書なんて四月当初に配られ、書き込みや日々の勉強でボロボロになるまで使う物であり、お金を払った記憶はない。

「教科書なのに、高すぎない。」

と尋ねた私に、姉がさらりと言った。

「高校になると教科書はお金かかるよ。高校でも三万円くらい必要な時あるよ。小学校と中学校は義務教育だから無料だけどね。」

この当たり前の学校生活を支えているのが、税金である。調べてみると、教科書の無償配布は世界中で行われているわけではない。そして、教科書だけでなく、今当たり前のように使っている学校用のタブレットも全員同じものを貸与されているではないか。日本が、義務教育という平等に教育を提供する素晴らしい環境を税金で作ってくれているからこそ、私たちは当たり前のように高校を選び、進学することができているのだ。そして、たくさんの選択肢の中から将来を選ぶことができる。「当たり前」の学校生活は、社会に支えられたかけがえのないものであると知り、残りの学校生活をどのように有意義に過ごすかを考える良い機会となった。

この夏休みは、高校でも体験入学が行われている。高校によって特色が様々で、将来の自分をしっかり想像し、高校を選ばなければならないと感じている。そして、「当たり前」だと感じていた勉強できるということ、将来を選ぶことができるということに、より感謝の気持ちを持つことができるようになった。

私達が与えられてきた環境を、これからもずっと支えていくためには、税金は必須である。税金は無限ではない。私は、税金によって支えられている「当たり前」にもっと気付き、正しく理解することや、現状の課題を知ることが必要なのではないか。そして、この「当たり前」をこれからの子ども達にも「当たり前」にしていくためにどうすればよいかを考え、関心を持ち、支えていける大人になりたいと思う。